

入選

ありがとう

青森県 油川中学校

3年 岡村夏緒

親切とは、ちょっとした気持ちから始まる、誰にでもできる行為。全員が持っている、温かく優しさが詰まっているもの。しかし、表に出すことが難しい。「親切」というものは、そのようなものだとは思います。少しばかり、「小さな親切」の意味が分かったできごとを紹介します。

私のお母さんは居酒屋を経営しており、祭りになると、屋台を出店します。私は、夏休みの間だけ、私の家族といっしょに屋台を手伝いに行きます。買い出しから屋台の片づけまで、従業員とともに総出で行います。くたくたになるまで仕事をするため、みんな疲労困憊こんぱいです。これが1週間ほど続くのが、例年の流れとなります。

私の担当は、おつまみの販売です。商品が無くならないよう追加したり、お金を計算したり、休む暇がありません。辞めたくなくなるときもありますが、不思議と続けられるのです。その理由は、笑顔と感謝です。お客様が笑顔で楽しんでくださるのを見ると、幸せになります。さりげない行動ですが、相手の気持ちを華やかにしてくれる、かけがえのないものだと感じました。

私が「小さな親切」の意味が分かった瞬間は、お客様が「ありがとう」と感謝を伝えてくれたときです。純粹にとっても嬉しかったです。素直に気持ちを伝えづらいのが人間だと思っています。伝えづらい中、正直に言ってもらうことで、多くの人が幸せになると学びました。私が見つけた「小さな親切」は、「笑顔」と「ありがとう」です。

身近にたくさんある「小さな親切」は、本当にささいなものです。適度な感謝を伝えたり、笑顔で人に接することが大切なのだと、経験することができました。私は、人間関係でうまくいかないことが、たくさんありました。自分を見つめ直したり、まわりの行動を見て学んだり、自分にとって嫌な経験でも、考え次第で華やかになるものだと思います。いろいろな経験をしたからこそ、人に優しく接するための「小さな親切」を身につけられました。

私が伝えたいことは、小さなもので十分だということです。あいさつをすることは、ほんの一瞬です。ですが、するとしないとで、大きく変わるものです。気持ちがあるだけで、簡単に行動することができます。

生きていく中で、「小さな親切」を見つけたり、自分から動いたり、まわりを幸せな空間で包んでいきましょう。